

卒塔婆山は随分昔に小塩から登った記憶があったが、広域林道がソトバ山近くを切り裂くように開通してからは登山意欲が減衰し、長年近づくことはなかった。

小塩民宿から東谷を進むと林道には残雪が薄く残っていた。滝の谷を越えた辺りの林道の谷側に車を停める。山側に停めると落石の直撃を受ける可能性。川沿いの大気は氷点下で空気密度が少し重い感じがする。昨夜の酒のせいかもしれないのだが。

北に向かう林道をひたすら歩く。足元の残雪は硬い感触でうっかりすると滑りそうな気配。左岸の斜面には数種類の苔が真冬にも拘らず鮮明な生命力を感じる輝きを見せる。

ソトバ峠への取り付きは右岸にある。道標に雪でも被っていると見過ごしてしまうだろう。急斜面を北西方向に登るジグザグ道。殆どが杉の植林帯だが、部分的にイヌブナなどの自然林が現れるのが嬉しい。暗い植林が終わり、明るい自然林に変わるとようやくソトバ峠に到着する。予測通り雪は浅くワカンの必要はない。峠からは南西尾根に取り付き積雪量の薄い尾根を歩く。

穏やかな尾根を暫く歩くとソトバ山に到着する。山頂は樹林に囲まれて展望は少ない。陽だまりでランチタイム。H女史からお握りを頂く。やはりコンビニとは一味違う。

ランチ後山頂から南に向かうが直下で南西方向に尾根は曲がる。シャクナゲの多い露岩帯なので歩き辛い。しかし今年はシャクナゲの花芽が多いので開花期には期待ができそう。尾根筋から蒼い比良山系が見える、山頂付近は白い雪に覆われている。

下山予定の南東尾根取り付き点辺りは林道で切り裂かれ絶壁になっていると思い、尾根分岐の少し手前で林道に下ると案の定、尾根分岐点は深く削られ垂直の絶壁であった。

南東尾根の取り付きは露岩。シカの足跡を辿り、岩を巻いて尾根に乗る。痩せ尾根で露岩混じり、この辺りもイワカガミやイワウチワ、シャクナゲなどの群生地である。尾根は自然林が多くやたらとタムシバが多い。標高650m辺りで尾根が広がる。先端の600m辺りから尾根が細かく分岐するので、標高551mのある尾根を見つけるのは大変だ。始まりの段階で551mの尾根の方向にコンパスを合わせ真っ直ぐ進むと、上手く尾根を探し当てる事が出来た。

この辺りには台杉が多く残されており、生木のまま板取された杉の巨木が痛々しい。

520mの丸い小ピークから南西に向かう。地形図を見ると一番穏やかな尾根である。下ってきた南東尾根も自然林が多かったが520mからの南西尾根も美しい自然林で落ち葉が多く歩きやすい。本日の読図は精度が高く、谷と林道の合流点にピッタリ降りた。

トバ峠 10 : 38 発 46 ~ ソトバ山 11 : 10 発 36 ~ 南東尾根分岐 12 : 4 ~ 5 5 1 m 13 : 00 ~

5 2 0 m 13 : 24 ~ 林道 13 : 44 ~ 駐車地 13 : 51